

経営比較分析表（令和6年度決算）

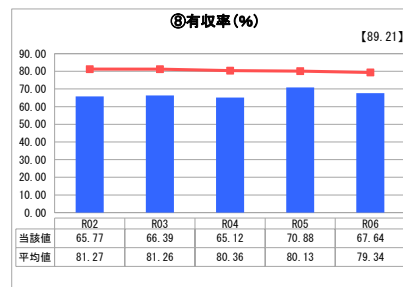
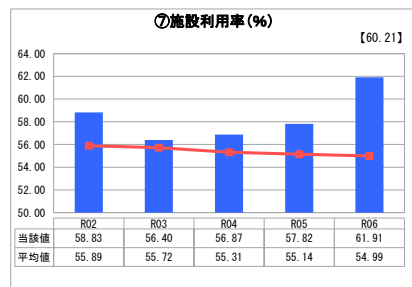
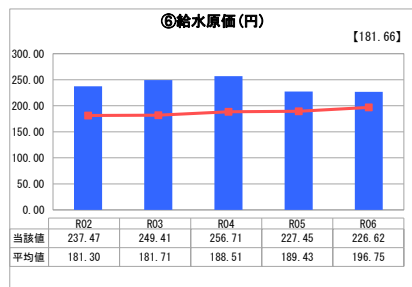
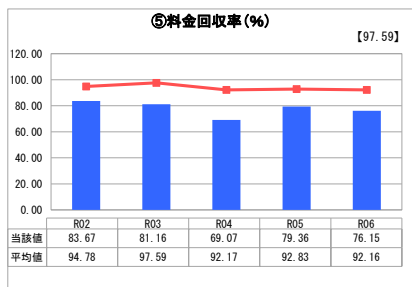
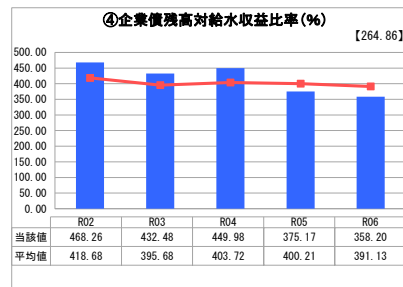
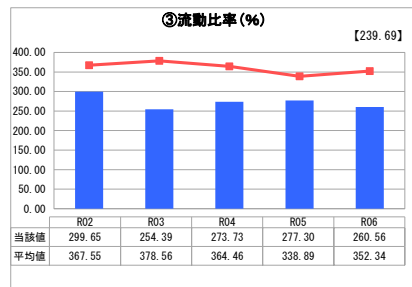
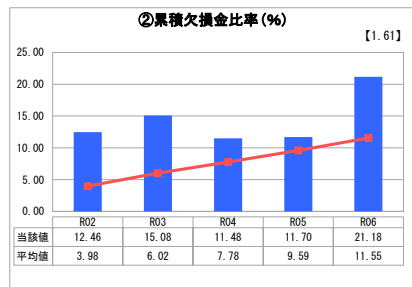
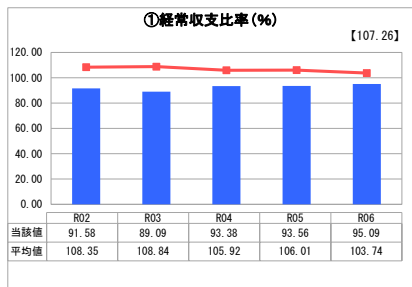
長崎県 彦根市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	75.84	99.79	4,240	

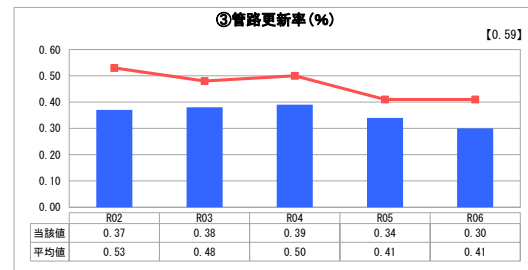
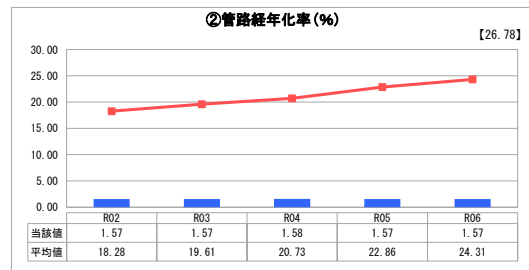
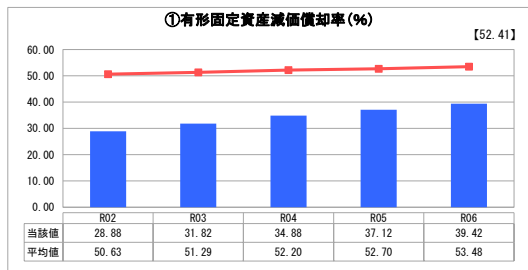
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
23,736	139.42	170.25
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
23,351	133.93	174.35

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
—	
令和6年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①② 経常収支比率は100%未満となっており、累積欠損金比率も増加している。背景として、各種費用は増加傾向にあるが、水道料金は据え置いたままであり、一般会計からの繰出金を充てても赤字である。

③ 流動比率は200%を超えており、支払い能力に問題はないが、今後も同程度の比率を維持するための検証が必要である。

④ 令和4年度は、コロナ減免により給水収益が大幅に下がったことで、前年度より比率が上回っている。しかし、基本的には給水収益の減少以上に企業債残高の減少が大きいため、比率も減少していく見込みである。

⑤ 類似団体平均値を下回っており、近い将来、料金改定の必要がある。

⑥ 有収率が低いために類似団体平均値を上回っている。今後、有収率を向上させる必要がある。

⑦ 配水池2カ所の廃止(深江平・滝ノ上)を行ったことで、比率が増加したと考えられる。引き続き、人口減少を踏まえ、施設の統廃合・ダウンサイジングを検討し実施していく。

⑧ 依然として平均値を大きく下回っている。今後も継続的な漏水調査、老朽管の更新を行う。

2. 老朽化の状況について

①②③のいずれも類似団体平均値を下回っているが、これは統合管水分の管路経過年数について正確に把握できていない部分があることが要因と考える。

今後も資産管理の精度向上及び、老朽管の計画的・継続的な更新が必要と考える。

全体総括

簡易水道統合に伴う維持管理費等の増加により経営状況が悪化したため、類似団体平均値を下回る項目が見られる。経常収支比率や有収率の向上等、更なる経営健全化を図る必要がある。

また、今後は老朽施設・管路等の設備更新を実施する必要があり、水道料金の改定を含めた財源の確保が重要課題である。